

資料5

報道発表資料

平成27年5月30日

気象庁

口永良部島の火山活動に関する火山噴火予知連絡会拡大幹事会見解

口永良部島では、5月29日09時59分に火砕流を伴う爆発的噴火が発生しました。この噴火はマグマ水蒸気噴火であったと考えられます。今後も同程度の噴火が発生する可能性があります。

口永良部島では、5月29日09時59分に爆発的噴火が発生しました。噴煙が火口縁上900メートル以上まで上がって東南東に流れ、大きな噴石が火口周辺に飛散しました。火砕流が北西側（向江浜地区）の海岸まで達しました。今回の噴火は前回の2014年8月3日の噴火を超える規模と考えられます。

この噴火に伴い、火山性微動と山頂側が沈降する傾斜変化が観測されました。

火山灰には新しいマグマと考えられる溶岩片が含まれることから、今回の噴火はマグマ水蒸気噴火であったと考えられます。

2014年8月3日の噴火以降、火山活動が活発化した状況が継続し、特に火山ガスや地殻変動観測から、爆発力が強い噴火や規模の大きな噴火に移行する可能性も予想された中で、5月23日に口永良部島で震度3を観測する地震が直下で発生し、その後、今回の爆発的な噴火が発生しました。

今後も今回と同程度の規模の噴火の可能性があるため、厳重な警戒が必要です。

今後の火山活動の推移を把握するために、地震、地殻変動、火山ガス等について、注意深く監視するため観測を強化する必要があります。

噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。また、降雨時には土石流の可能性がありますので注意してください。